大学生の SNS 利用とエゴグラムの関連

○岡本香・齋藤瞳
(東京福祉大学心理学部)

キーワード: “LINE”, 利用目的, 既読スルー

The relation between the SNS use and the egogram in university students.
Kaori OKAMOTO and Hitomi SAITO
(Graduate School of Psychology, Tokyo University and Graduate School of Social Welfare)
Key Words: LINE App., The use purpose, “Kidoku-mushi”

目 的

本研究は、大学生における SNS アプリを用いた対人コミュニケーションにおける対人トラブルについての基礎研究として、SNS アプリのひとつである“LINE”における“既読スルー問題”に着目して行われたものである。

“既読スルー”とは、“LINE”のトークルーム(チャット画面)において、メッセージの送り手が送信したコメントに対し、メッセージの受け手がそれを読んだにもかかわらず、返信しないことをいう。それによって生じた各種トラブルのことを総じて“既読スルー問題”という。

本研究では、この“既読スルー問題”について、“LINE”利用とパーソナリティの関連に着目して検討することを試みた。“LINE”利用については、“LINE”の利用目的と“既読スルー”に対する態度を取り上げた。またパーソナリティについては、エゴグラムを取り上げた。そしてそれらの相関を検討することにより、“LINE”利用とパーソナリティとの関連について調べることを目的とした。

方 法

調査協力者は、日本人大学生 351 名(男性 121 名、女性 230 名)であった。

調査はオンライン調査会社に依頼し、インターネットサイトにて 2018 年 3 月に行われた。

調査に用いた尺度は、LINE 利用目的尺度(岡本, 2017a) 28 項目、LINE 既読スルー態度尺度(岡本, 2017b) 29 項目、桂式自己成長エゴグラム(桂・芦原・村上, 1999) 50 項目、計 107 項目であった。

結 果

尺度の因子構造 LINE 利用目的尺度 28 項目(岡本, 2017a, 以下目的尺度とする)、LINE 既読スルー態度尺度 29 項目(岡本, 2017b, 以下既読スルー態度尺度とする)、それぞれについて、因子構造を確認するために因子分析(最尤法、プロマックス回転)を行った。その結果、両尺度とも先行研究と同様の 3 因子が抽出された。したがって、LINE 利用目的尺度については、第 I 因子 13 項目を「遊ぶための連絡確認」、第 II 因子 8 項目を「日常生活でのやりとり」、第 III 因子 7 項目を「授業に関する確認」と命名した。同様に LINE 既読スルー態度尺度については、第 I 因子 18 項目を「既読スルーをされる相手についての理解」、第 II 因子 7 項目を「既読スルー自体に対する価値観」、第 III 因子 4 項目を「既読スルーが生じた原因についての理解」と命名した。

LINE 利用とパーソナリティの関連 LINE 利用とパーソナリティの関連を検討するために、利用目的尺度 3 因子および既読スルー態度尺度 3 因子それぞれの因子に含まれる項目得点を合計したものとエゴグラム 5 因子それぞれの得点について、ピアソンの相関分析を、全体と男性のみ、女性のみ、の 3 回に分けて行った。その結果を表 1 に示す。全体については、目的尺度の 3 つの下位因子とエゴグラムの 5 因子全ての

間、既読スルー態度尺度の第 I 因子とエゴグラムの AC、第 II 因子とエゴグラムの CP、A、FC、AC、第 III 因子とエゴグラムの CP、AC の間に、それぞれ有意な弱い相関が認められた。また男性については、目的尺度の第 I 因子とエゴグラムの CP、NP、第 II 因子とエゴグラムの NP、FC、AC、第 III 因子とエゴグラムの AC の間、既読スルー態度尺度の第 I 因子とエゴグラムの AC、第 II 因子とエゴグラムの CP、A、AC、第 III 因子とエゴグラムの CP、AC の間に、それぞれ有意な弱い相関が認められた。さらに女性については、目的尺度の第 I 因子とエゴグラム 5 因子全て、第 II 因子とエゴグラム 5 因子全て、第 III 因子(授業に関する確認)と CP、NP、A、FC の間、既読スルー態度尺度の第 II 因子と CP、A、FC、第 III 因子と CP、AC との間に、それぞれ有意な弱い相関が認められた。

表 1 LINE 利用目的尺度および LINE 既読スルー態度尺度とエゴグラム得点の相関分析結果

		遊びの連絡確認	日常生活でのやりとり	授業の確認	相手理解	価値観	原因の理解
全体 n=351	CP	0.274 **	0.194 **	0.191 **	0.055	0.216 **	0.197 **
	NP	0.263 **	0.351 **	0.255 **	0.002	0.084	0.087
	A	0.188 **	0.204 **	0.161 **	0.026	0.170 **	0.064
	FC	0.291 **	0.382 **	0.284 **	-0.014	0.122 *	0.094
	AC	0.194 **	0.215 **	0.161 **	0.149 **	0.111 *	0.202 **
男性 n=121	CP	0.279 **	0.118	0.137	0.073	0.355 **	0.268 **
	NP	0.197 *	0.342 **	0.136	0.096	0.093	0.070
	A	0.159	0.159	0.101	-0.009	0.186 *	0.087
	FC	0.180	0.230 *	-0.017	0.030	0.098	0.005
	AC	0.165	0.241 **	0.179 *	0.240 **	0.219 *	0.245 **
女性 n=230	CP	0.253 **	0.197 **	0.195 **	0.055	0.130 *	0.136 *
	NP	0.252 **	0.297 **	0.271 **	-0.024	0.036	0.031
	A	0.194 **	0.216 **	0.182 **	0.049	0.153 *	0.037
	FC	0.319 **	0.382 **	0.371 **	-0.023	0.134 *	0.093
	AC	0.180 **	0.158 *	0.122	0.113	0.020	0.140 *

*** 相関係数は 1% 水準で有意(両側)、* 相関係数は 5% 水準で有意(両側)

考 察

先行研究において、“既読スルー問題”を考える際には、既読スルー態度尺度の第 I 因子に着目することの重要性が示されてきた(岡本, 2017b)。しかし本研究の結果においては、全体と男性でエゴグラムの AC のみと有意な相関が認められ、女性でエゴグラムとの有意な相関は認められなかった。しかし、既読スルー態度尺度とエゴグラムの相関は、女性においてより認められるであろうと推察されたことから、今後、エゴグラムの 5 因子間のバランスも考慮しながら、さらなる検討の必要があると考えられた。

引用文献

桂戴作・芦原睦・村上正人(1991). 自己成長エゴグラムのすべて SGE マニュアル チーム医療
岡本香(2017a). 大学生の LINE 利用目的尺度作成の試み 日本社会心理学会第 58 回大会発表論文集, 295.
岡本香(2017b). LINE 既読スルー態度尺度作成の試み 電子情報通信学会 HCG シンポジウム 2017, HCG2017-A-3-4.

その他

本研究は、JSPS 科研費 26590133 の助成を受けた。